

### 第30回原子力安全文化有識者会議 議事概要

- 開催日時 2023年10月23日(木) 14時30分～16時40分
- 開催場所 松江市総合文化センター「ブラバホール」 2階大会議室
- 出席者 [社外委員] 梅林委員、亀城委員、児玉委員、高尾委員、竹上委員、山浦委員  
※豊田委員はご欠席。  
[社内委員] 北野副社長、長谷川常務  
[幹事] 高場原子力強化プロジェクト長

#### ○ 議事内容

##### 1. 開会あいさつ(高場幹事)

- ・当社は、公正取引委員会からの独占禁止法に基づく排除措置命令・課徴金納付命令の受領や、中国電力ネットワーク株式会社が管理するお客さま情報の不正閲覧などの不適切事案が発生したことを踏まえ、本年3月、一連の不適切事案に対する対応組織として「不適切事案再発防止対応本部」を設け、私が本部長を務めております。また、本年5月には、同対応本部の体制を強化するため、社内に「企業再生プロジェクト」を設け、その中で再発防止策について色々と議論をしているところです。今後は、同対応本部で取りまとめた再発防止策を着実に実行いたしまして、地域の皆さまからの信頼を回復できるよう、全社を挙げて取り組んでまいります。
- ・島根原子力発電所2号機については、原子力規制委員会から原子炉設置変更許可を受け、昨年には島根県知事から事前了解を受領するとともに、すべての関係自治体による再稼働容認のご判断をいただきました。現在、来年8月の再稼働を目指し、原子力規制委員会の残りの審査と並行して、引き続き安全第一で安全対策工事に全力で取り組んでいるところです。
- ・原子力発電所の稼働にあたっては、地域の皆さまからの信頼が何より重要です。「社員一人ひとりが、それぞれの職場において日々誠実に業務に取り組み、全社一丸となって原子力安全を追求することが信頼につながる」ことをいま一度肝に銘じて、協力会社と一体となって全力で取り組んでまいります。
- ・本日は委員の皆さまから忌憚のないご意見・ご提言を賜り、それを今後の取組みに反映させ、原子力安全文化醸成の一層の強化に努めたいと考えております。

##### 2. 議事

###### (1) 点検不備問題に係る再発防止対策の実施状況・評価ほかについて

資料にもとづき、小川電源事業本部部長および川本原子力強化プロジェクト部長から説明し、質疑を行った。主な意見は以下のとおり。

〔「お客さま視点の価値観を認識する機会の拡大」に関する意見〕

- ・地元を一軒一軒訪問する活動を行うことで、住民側にとっては中国電力から直接話を聞くことができ、中国電力側にとっても地元の「生の声」を聴くことのできる絶好の機会を持つことができるので、非常に期待している。

[原子力安全文化醸成活動全般に係る意見]

- ・中国電力の取組みについて説明を受け、「安全文化」というものが安定感や定着感を備えたものに完成しつつあるという印象を受けた。この点について、地元住民の一人として非常に心強く感じている。

[コミュニケーションに関する意見]

- ・感謝経験を得ることによって心身の健康が図られ、またパフォーマンス向上にもつながるといわれているので、今後も継続してほしい。
- ・再稼働に向け慌ただしい中、コミュニケーションにおける「ボタンの掛け違い」が起これやすくなる。一度信頼を失うと元のレベルには戻らないので、他者との関わりの中で覚えた違和感を見逃さず、それを吸収して解決していけるような「受け皿」を整備してほしい。
- ・若い社員に発言の場を与える仕組みを構築しても、実際に意見を言うのはなかなか難しいので、若い社員の気づきを取り上げるような工夫があった方がよい。

[中国電力からの情報発信に関する意見]

- ・「世間の良識」というものは刻々と変化しており、従来どおりの説明や広報では通用しないこともあるので、情報発信についてよく考えて取り組んでほしい。

[その他意見]

- ・最近、「無理をしてでもやり遂げる」という意識が強すぎるあまり大きな事故が起これがちである。中国電力におかれては、「安全文化」の実現に向かって引き続き精力的に取り組んでほしい。
- ・安全文化の実現にあたっては、その重要性を認識するだけでなく行動が伴わないといけないう。 「認識」と「行動」の間には大きな溝があるので、重大事故を起こさないことはもとより、重大事故が起こった場合でも対応できる力を身につけることが大事である。
- ・島根原子力発電所では、重大事故が発生した場合の対策を講じるとともに、想定外の事象が発生した場合でも対応できるよう訓練を重ねているとのことで、事故発生に備えた十分な準備ができていると非常に高い信頼感を持った。
- ・中国電力におかれては、再稼働までたがを緩めることなく、緊張感を持続してほしい。そして、再稼働はあくまでも通過点であるので、再稼働後も更に安全意識を持って行動してほしい。

(2) 情報提供：島根原子力発電所 新規制基準適合性審査の状況ほかについて

資料にもとづき、谷浦電源事業本部部長から情報提供を行った。

### 3. 閉会あいさつ（高場幹事）

- ・本日は様々なご意見やご提言を賜り感謝申し上げます。
- ・いただいたご意見やご提言として、「安全文化の実現にあたっては、その重要性を認識するだけでなく、行動・実行が大切である」「世間の良識は刻々と変化しており、従来どおりの広報や説明では通用しないこともあるので、情報発信についてよく考えて取り組んでほしい」「再稼働に向け、慌ただしさや緊張感が続く時期であるが、コミュニケーションにおけるボタンの掛け違いが起こると信頼が失われ、元のレベルには戻らないので、それを解決する『受け皿』をしっかりと整えておくべき」「若手社員の気づきを取り上げるような工夫があった方がよい」等がありました。
- ・また、当社に対する「発電所構内親睦行事（バーベキュー大会）は非常に一体感のある良い雰囲気の中で行われており、参加者はその様子を自分の職場で共有することによって、発電所内で働く約4,000人が一つになって頑張してほしい」「島根原子力発電所2号機の再稼働に向け、たがを緩めず、緊張感を持ち続けてほしい。また再稼働後は、更に安全意識を持ってしっかりやってほしい」等の激励の言葉もいただきました。
- ・再発防止対策や原子力安全文化醸成活動の取組状況については、今後も有識者会議において適宜ご報告するので、変わらぬご支援を賜るようお願い申し上げます。

以上